

バンダイこどもアンケートレポート Vol.214

「卒業に関する意識調査」結果

- TOPIC①: 7割以上の子どもが、卒業に際し一番感謝の気持ちを伝えたい人は「父親・母親」と回答。親が子の卒業に際し、感謝の気持ちを伝えたい人の1位は、「子ども」自身。
- TOPIC②: 子ども、親ともに感謝の気持ちを伝えたい人の2位は、「先生」。年長の子どもの持つ親の回答では、「先生」が1位に。
- TOPIC③: 親が、子の卒業に際し感謝の気持ちを伝えたい人の3位は、「祖父・祖母」。祖父・祖母・子ども、三世代のつながりを感じさせる結果に。
- TOPIC④: 子どもたちの在園時の最も印象に残っている思い出は「運動会・体育祭」。在学時の最も印象に残っている思い出は「修学旅行」という結果に。親の回答では、子どもの成長を実感した「運動会・体育祭」、「入園式・入学式」が上位に。

総括 : バンダイからのコメント

株式会社バンダイ(本社:東京都台東区、代表取締役社長:上野和典)は、今年の3月に卒業を迎える、年長児童、小学6年生、中学3年生の子どもを持つ親※840人を対象に、「卒業に関する意識調査」を実施しました。調査結果を以下の通り発表いたします。

(実査期間:2014年1月15日~19日) ※子どもと一緒に回答できる方

【卒業に際して「ありがとう」の感謝の気持ちを伝えたい人】

子どもが感謝の気持ちを伝えたい人			親が感謝の気持ちを伝えたい人		
1位	父親・母親	73.9%	1位	子ども	34.0%
2位	保育園・幼稚園・学校の先生	13.8%	2位	保育園・幼稚園・学校の先生	24.6%
3位	友達	5.7%	3位	子どもにとっての祖父・祖母	16.9%
4位	祖父・祖母	2.4%	4位	夫・妻	16.7%
5位	塾・習い事の先生	1.4%	5位	子どもの友達	2.0%

TOPIC①: 7割以上の子どもが、卒業に際し一番感謝の気持ちを伝えたい人は「父親・母親」と回答。親が子の卒業に際し、感謝の気持ちを伝えたい人の1位は、「子ども」自身。

今年の3月に卒業を迎える、年長児童、小学6年生、中学3年生が、卒業に際して「ありがとう」の感謝の気持ちを伝えたい人を聞いたところ、「父親・母親」という回答が7割以上を占め、断トツのトップとなりました。その理由として、「今まで育ててくれて感謝している」(中学3年生女子)、「いつも話を聞いてくれるから」(小学6年生女児)、「毎日、送迎してくれたり、お弁当を作ってくれたから」(年長男児)、「高いお金を払って、塾に行かせてくれたから」(中学3年生男子)などのコメントが寄せられ、育ててくれたこと、日頃のサポートに対する感謝の気持ちが読み取れました。

一方、子どもの卒業に際し、親が「ありがとう」の感謝の気持ちを伝えたい人の1位は、「子ども」(34.0%)となり、子どもは親に、親は子どもに、相互に感謝して卒業を迎えることを示す結果となりました。

親からは、「ここまで無事に成長してくれてありがとう」(年長男児の母親)、「素直に成長してくれているから」(小学6年生女児の母親)という子どもの成長に感謝する声や、「勉強も部活も頑張ったから」(中学3年生男子の父親)、という子どもの頑張りを称えるコメントも寄せられました。

TOPIC②: 子ども、親ともに感謝の気持ちを伝えたい人の2位は、「先生」。

年長の子どもの持つ親の回答では、「先生」が1位に。

感謝の気持ちを伝えたい人の2位は、子ども、親ともに「保育園・幼稚園・学校の先生」(子ども13.8%、親24.6%)となり、家族に次いで重要なポジションを占めていることを示す結果となりました。

特に年長の子どもの持つ親ではその傾向が顕著に現れており、「先生」と回答した人が41.8%で1位となりました。その理由として、「大事な子どもを預かってもらったから」(年長男児の父親)、「毎日の様子をしっかり見て伝えてくれた。きめ細やかな先生だった」(年長女児の母親)などのコメントが寄せられ、初めて子どもを預ける家族以外の存在として、「先生」を信頼し、感謝していることがうかがえました。

年長の子どもの親が感謝の気持ちを伝えたい人		
1位	保育園・幼稚園の先生	41.8%
2位	子ども	28.6%
3位	夫・妻	14.6%
4位	子どもにとっての祖父・祖母	11.1%
5位	子どもの友達	1.8%

TOPIC③: 親が、子の卒業に際し感謝の気持ちを伝えたい人の3位は、「祖父・祖母」

祖父母・父母・子ども、三世代のつながりを感じさせる結果に。

子どもの卒業に際し、親が感謝を伝えたい人の3位に「祖父・祖母」(16.9%)がランクインしました。「学費を援助してくれたから」(中学3年生男子の母親)という経済的支援や、「いつも気にしてくれた」(中学3年生女子の母親)、「私がしてあげられないことをしてくれていた」(小学6年生女児の母親)という精神的な支援に加え、「送迎を手伝ってくれた」(年長男児の母親)という日常生活のサポートに対して感謝するコメントが寄せられました。

また、子どもから「祖父・祖母」に対しては、「いつも遊んでくれる」(年長女児)、「応援してくれた」(小学6年生男児)などのコメントがあり、核家族化が進行する一方で、子どもの成長を支える「祖父母」の存在の大きさと、祖父母・父母、子ども、三世代のつながりを感じさせる結果となりました。

TOPIC④:子どもたちの在園時の最も印象に残っている思い出は「運動会・体育祭」。

在学時の最も印象に残っている思い出は「修学旅行」という結果に。

親の回答では、子どもの成長を実感した「運動会・体育祭」、「入園式・入学式」が上位に。

【卒業までの生活のなかで、最も印象に残っている思い出は何ですか？(子どもの回答)】

年長児童		
1位	運動会・体育祭	32.9%
2位	お泊まり会	18.9%
3位	遠足	12.1%
4位	発表会	11.4%
5位	季節ごとの小規模イベント	9.3%

小学校6年生			中学校3年生		
1位	修学旅行	53.9%	1位	修学旅行	36.1%
2位	運動会・体育祭	12.5%	2位	クラブ活動・部活	31.1%
3位	林間学校・臨海学校	8.9%	3位	その他	7.1%
4位	その他	4.6%	4位	運動会・体育祭	6.8%
5位	入学式	3.9%	5位	音楽祭・合唱コンクール	5.0%

卒業までの生活のなかで、子どもが最も印象に残っている思い出を聞いたところ、年長児童では、1位「運動会・体育祭」(32.9%)、2位「お泊まり会」(18.9%)、小学6年生では、1位「修学旅行」(53.9%)、2位「運動会・体育祭」(12.5%)、中学3年生では、1位「修学旅行」(36.1%)、2位「クラブ活動・部活」(31.1%)が支持を集めました。

「(運動会では)いっぱい練習してパパとママに見てもらえるから」(年長女兒)、「(修学旅行で)大きいお風呂、綺麗な旅館にみんなで泊まって楽しかった」(小学6年生男児)、「(部活動で)仲間とともに苦楽を共にしたから」(中学3年生男子)、「吹奏楽部で金賞が取れたから」(中学3年生女子)などのコメントが寄せられ、友達や仲間と一緒に楽しかったことや、努力して打ち込んだこと、良い結果を残せたことが一番印象に残っている思い出となっていることがうかがえました。

【子どもの卒業までの生活のなかで、最も印象に残っている思い出は何ですか？(親の回答)】

親		
1位	運動会・体育祭	28.7%
2位	入園式・入学式	19.9%
3位	クラブ活動・部活	10.4%
4位	発表会	8.8%
5位	音楽祭・合唱コンクール	5.2%

親が最も印象に残っている思い出を聞いたところ、1位は「運動会・体育祭」(28.7%)。次いで、2位に「入園式・入学式」(19.9%)がランクインしました。

運動会は、「毎年、成長していく姿が見られるから」(小学6年生女兒の母親)、「一番楽しそうだったし、苦手なことでもチャレンジしていてとても成長が見られた」(年長女兒の母親)などのコメントが、そして、入園式・入学式と回答した方からは、「東日本大震災後すぐで、子どもの節目の大切さをしみじみ感じたから」(中学3年生男子の母親)、「子どもの初めての晴れ舞台だったので」(年長女兒の母親)などのコメントが寄せられ、子どもの成長を実感できたイベントが印象に残っていることが読み取れました。

【バンダイからのコメント】

誰もが人生で経験する「卒業式」。保育園・幼稚園・学校生活最後の締めくくりとして、子どもにとって大きなイベントであり、親にとっても、子どもの成長を実感し、胸が熱くなるイベントなのではないでしょうか。

「卒業」に際し、「ありがとう」と言いたい人は、子どもからは「父親・母親」、親からは「子ども」が1位となり、互いを思いやる「親子の絆」を感じられる結果となりました。また、コメントからは「参観日には必ず来てくれたから」という親の頑張りを子どもが汲み取ったと感じるものや、「大切」「尊敬」「感謝」「理解」「協力」など、たくさんの素晴らしいキーワードを拾うことができ、温かな気持ちとなりました。

また、親だけではできないことをサポートする存在として、「先生」、「祖父母」に感謝している人も多数おり、多くの人に支えられて、子どもは成長している、ということ強く感じました。

親子ともに節目となる、卒業。身近にいる大切な人や、お世話になった人に、改めて「ありがとう」の気持ちを伝える絶好の機会になるのではないのでしょうか。

■調査概要

【調査目的】 卒業に関する意識を探る

【調査地域】 全国

【対象者条件】 保育園及び幼稚園の年長児童、小学6年生、中学3年生の子どもを持つ親
※子どもと一緒に回答できる方

【調査手法】 インターネット調査(協力:株式会社クロス・マーケティング)

【実査期間】 2014年1月15日(水)～1月19日(日)

【サンプル数】 840人

【構成】

(全体)	年長児童	小学6年生	中学3年生
男子	140人	140人	140人
女子	140人	140人	140人

こどもアンケートホームページ: <http://www.bandai.co.jp/kodomo/>

バンダイホームページ: <http://www.bandai.co.jp/>